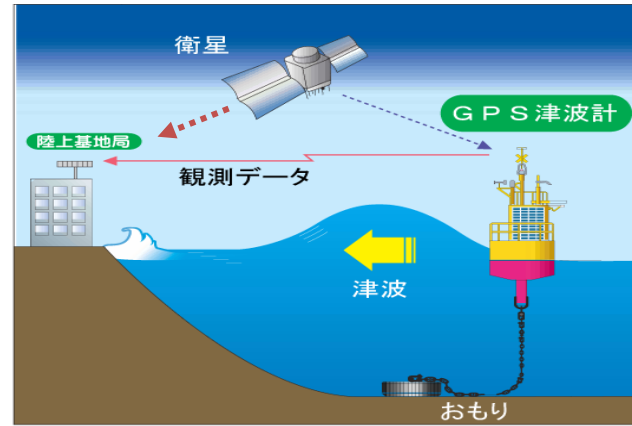
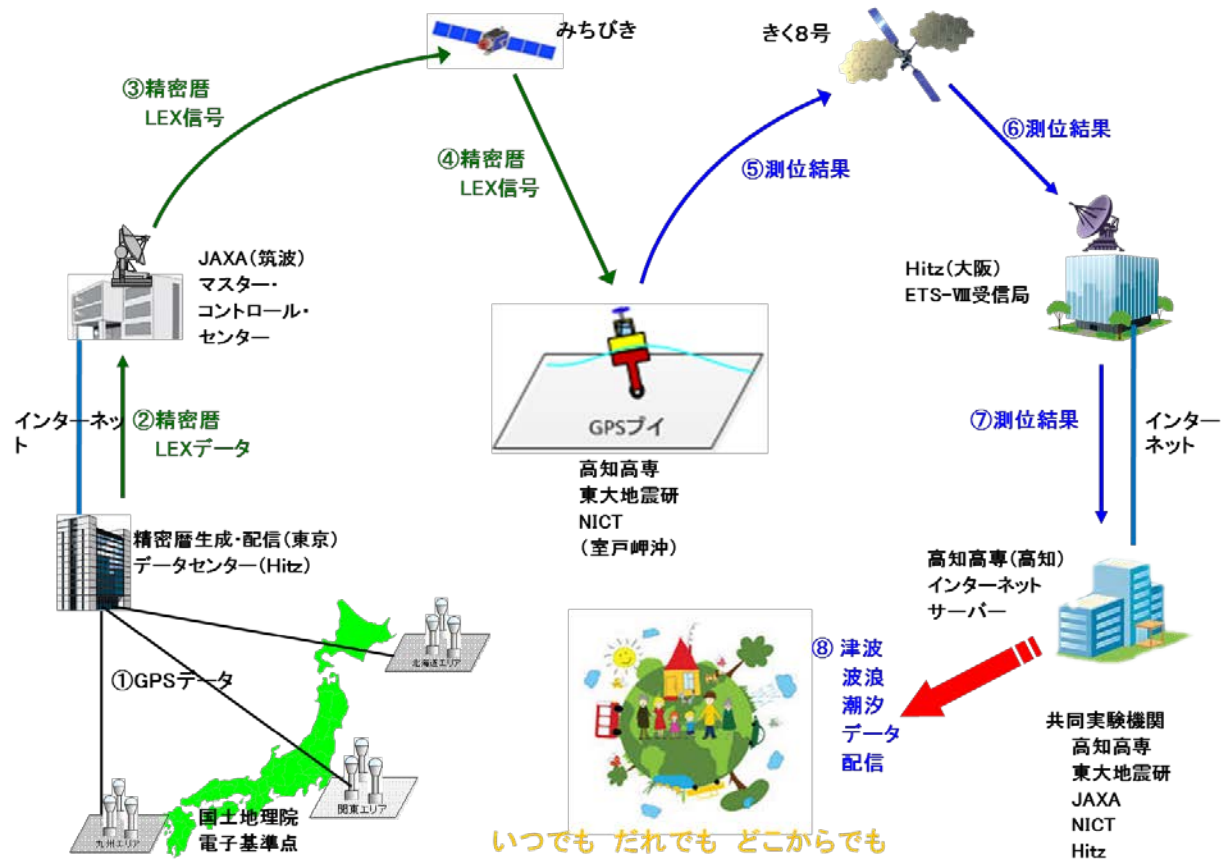


人工衛星を用いて津波を観測していち早く情報提供をする「GPS津波計」の研究・開発を行い、気象庁の予報に活かすとともに、総務省G空間シティ構築事業の実証事業に助言を行うなど防災におけるICT利活用に貢献されました。

GPS津波計原理図



実用化に向けた新たな課題への取り組み



GPS津波計は、浮体を海に浮かべて、その3次元の変化をGPSを使って、計測するというものです。

東日本大震災では、当初低かった津波の予測値が、釜石沖のGPS津波計（波浪計）の実測値などを基に最大級に引き上げられました。

観測データの確実な伝送を実現するために、技術試験衛星「きく8号」を使って被災の無い地域に送信したり、GPS津波計をより沖合に設置し、津波の早期警報を可能とするため、準天頂衛星「みちびき」を使った実験も行っています。

気象庁の予報に活用